1977 年 12 月 3 日　第 3 種郵便認可　毎月 18 回(1,2,3,5,6,7 の日)発行　2014 年 4 月 30 日発行　SSKP　増刊通巻第 5710 号

自立生活センター・小平　通信

生活を豊かに彩る「ゆにーく　ゆあ　らいふ！」　SSKP

ゆにーく your らいふ

2014 年
5 月号

追　悼

川　元　恭　子

1977 年 12 月 3 日　第 3 種郵便認可　毎月 18 回(1,2,3,5,6,7 の日)発行　2014 年 4 月 30 日発行　SSKP　増刊通巻第 5710 号

目　次

2014年
5月号

自立生活センター・小平　通信　SSKP
ゆにー＜your らいふ

p　３　訃報
p　４　代表就任ご挨拶
p　５　クリスマス会報告
p　６　全国自立生活センター協議会セミナー報告
p　７　第二回　障害者政策討論会集会報告

p　８　連載涼子の交通アクセス　こんなんでいいん会
p１１　連載ぶっちゃんの子育て奮闘記

p１２　ＮＥＷ　ＦＡＣＥ紹介
p１３　隔号連載ばばぁ～のたわごと

p１４　活動報告
p１７　編集後記・地図
p１８　サービスのご案内

訃　　報

いつも自立生活センター・小平の活動にご協力、ご理解いただきありがとうございます。

このたび当団体の代表を務めておりました川元恭子が、2014 年 2 月 1 日に 1 年半の闘病の末永眠いたしました。ここにそのお知らせをいたします。

これまで川元が障害者運動にかけてきた想いなどを引き継ぎ、また発展させてＣＩＬ・小平の活動につなげていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

このことに伴う新役員は以下の通りです。

代表　　：竹島　けい子
副代表　：小泉　信治
事務局長：淺川　都

川元同様にこれからもご理解とご協力をお願いいたします。

自立生活センター・小平　代表　竹島　けい子

代表就任ご挨拶

自立生活センター・小平
新代表　竹島　けい子

自立生活センター・小平の創設者であり初代の代表を務めてきた川元恭子が１年半に及ぶ癌との闘病生活の末２月１日に永眠いたしました。

川元は自身の障害の重度化を予測し、障害者として地域で当たり前に生きることに人生をかけるべく、20 余年前に小豆島から東京に出てきました。川元は２年間の予定で東京で勉強をし、そののちは香川に帰り自分の生まれ育った地域での生活を考えてきましたが、２年間の東京での経験は川元の決心をかえさせ、その後は、全国の障害者が地域で人間として当たり前に生きることへの道作りにその生涯を投じることにしたのでした。

そのスタートが 1996 年の自立生活センター・小平の設立でした。当時は３人で始めたセンターですが、今では総勢 150 人余りのセンターに成長しました。そのモットーは、常に人ととことん関わることを大事にすることでした。

これから川元はいませんが、ＣＩＬ・小平がこれまで大事にしてきた理念をこれからも引き継ぎ、重度の障害を持っていても安心して地域で人間らしく生きることを求め、そして広めていくことを今後のセンターに指針にしていきたいと思います。

新米でまだまだこれから修行する身ではありますが、みなさんに支えてもらいながら、皆さんを支えられるセンターを作っていきたいと思います。

これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

2014 年 5 月

自立生活センター・小平　代表　　竹島　けい子

クリスマス会報告

大渕　由理子

去る12月10日に、単発ILとしてクリスマス会を自立生活センター・小平の研修室で行いました。
参加者は、利用者7名、当事者職員4名の計11名でした。

クリスマス会ということで、前日から会場の飾り付けを利用者さん交えて行いました。
皆さん、装飾を自由に考えながら、発想豊かに飾っていました。
ある利用者さんは、私達に無い発想でモールを一般的にはツリーに巻きつけたり壁などに波のように飾りますが、その方はモールをくるくる丸めて花のように飾っていました。それを見て私は“こうゆうやり方もあるんだな”と思いました。

当日は昼食から始まりました。メニューは、ビーフシチュー・ミモザサラダ・シーフードマリネ・パン・ケーキにいつもは出ないシャンパン・シャンメリーとちょっと豪華な食事になりました。
特に、ビーフシチューは煮込みすぎて具がなくなる位とろとろした感じで、美味しかったです。

昼食の後は、利用者さんによるクイズをやりました。内容は、キーワードに沿ってクロスワード形式で行いました。問題的には、難しかしそうな人や簡単に答えられる人さまざまでしたが、皆さんワイワイ楽しそうでした。

全国自立生活センター協議会セミナー報告

浅川　都

2013年12月17～19日に福岡市のアクロス福岡で、JIL-全国自立生活センター協議会のセミナーに参加しました。

今回の内容は、障害者運動の歴史、障害者制度改革について、医療的ケアが必要な人の基盤整備、尊厳死について、重度の知的障害者の自立支援など、私たちの生活にかんすることや、障害者運動を行っていく当事者として、考えさせられると同時にたくさん学ぶことができました。

「標的の村」という記録映画を見て、沖縄で基地の反対運動をしたことで裁判にかけられてしまった地元方の話を直接聞くことができました。
ただ、ふつうに地域で生きている人たちが、突然家のそばにヘリパットができると聞いたら当然反対すると思います。そんな、当たり前のことを言っているだけなのに、現場の住民の意思を無視し、声も届かない、座り込みをすることしか訴える手段のない住民を、国が訴訟し、参加もしていない小学生までもが訴えられるという事があったという事を知り大変驚きました。

私たち、障害を持つ者も、私たち抜きに私たちのことを決めないでと訴えているとおり、意志を聞いてもらえず、声をあげても聞いてもらえないことがたくさんあります。一番きくべきである現場の声や、当事者の意志は聞いてもらえない、戦っていかなくてはいけないというところでは、沖縄の問題も障害者の問題も同じだと感じました。
問題にぶつかり、当事者になることでしか現場の人たちの気持ちが分からないのだとしたら、大変に悔しく悲しいことです。ニュースなどを通して、困っている人を知ったら、自分には関係ないのだと考えがちなことでも、少しでも想いを馳せるということをしていきたいと思います。

知的障害者の自立支援については、CIL・小平の事例をもとに話をしました。重度の知的障害の方の自立については、難しいところもあるとは思いますが、CIL・小平では、時間をかけさまざまな方面からの関わりを通して知的障害を持つ方のサポートについて、学んできました。GM、コーディネーターだけではなく、事務所全体が一丸となり、関わり方やサポートの仕方を勉強し、会議で議論してきたことで重度の知的障害を持つ方の自立支援ができたと思っています。

会場からは、現在知的障害の方と関わっている方や、これからの支援を考えている方からの質問もあり、皆さんの関心の深さを感じました。

今回のセミナーでも、全国からたくさんの自立生活センターに関わっている方の参加があり、熱心に学ぶ姿勢に刺激を受けました。
今後も、CILの理念を基本に、よりよい活動をしていきたいと思っています。

第２回　ＤＰＩ障害者政策討論会集会報告

山嵜　涼子

２０１３年１１月３０日（土）・１２月１日（日）
会場：戸山サンライズ・新宿区立障害者福祉センター
主催：ＤＰＩ日本会議

全体会

当事者主体の政策をめざして

～権利条約の批准を見据え、制度改革第２ラウンドを展望する～

分科会
・所得補償・生活保護：『今改めて障害者の所得補償のあり方を考える』
・教育：『インクル―シブ教育実現と差別解消法』
・地域生活：『総合支援法と地域生活支援に行方』
・交通・まちづくり：『交通まちづくりにおける差別禁止と合理的配慮のあり方』
・雇用・就労：『雇用・就労分野における差別禁止と合理的配慮を考える』

今回も２日間の予定で開催された。会場を見回すと地方の団体の出席が目立つ。

今年と昨年の違いは議長の三澤了さんがいないこと。亡くなられたからだ。毎回出席しているが、到着するといつも三澤議長は参加者に囲まれて沢山の話しを聞き、応え皆さんに時間の許す限り応じていた。でもその姿はもうない。

私は交通・まちづくりにも出席した。昨年まで当団体で研修で所属していた『内海千恵子』が地元の障害児の現状と課題を発表した。名古屋どの活躍が目に見えてくるようだった。

感じたのは、交通は毎回他の分科会よりも参加が少ないしそのために空き席も目立ったが今回はほぼいっぱいだ。真剣に話を聞いていると、地方では無人駅が増えていること。利用乗客数５０００人を超える駅でも事前説明もなくいきなり無人になり、インターホン対応になったということ。そのインターホンでさえ車いす使用者の手が届かない。つまり今まで利用できた最寄り駅がある日突然利用できなくなったというわけだ。電車に乗るのにスロープが必要な車いす使用者に対し、インターホンで当事者から要請があり始めて近隣の駅から係員が当事者がいる駅まで出張するという。その解決策を求めている。

東京だって起こり得ることだとおもう。やはり地方に耳を傾けるべきだと改めて感じる。

涼子の交通アクセス　こんなんでいいん会

山嵜　涼子

皆様お変わりありませんでしょうか。今年の冬はいつまでも寒い寒いと騒いでいながらも、最近になってやっと近所の梅畑の梅の実がふくらみ始めました。どんなに寒く長い冬でも必ず春は来るのですね。何かにつけスランプの私。その梅を発見した時にはちょっぴり何かわからないけど勇気が出た気がしました。だって春だぁ～♪と感じるだけで良いことが起こりそうな春って、そんな気分にさせてくれる季節ですよね。

さて、今日は２月の２週連続の大雪で私は社会の変化を感じることができました。おもわぬ収穫です。

２回目の大雪のことです。交通機関の全てが運休するような大雪で危うく玄関のドアも開かなくなるところでした。それでもアパートの大家さんと近所の人と雪かきをして、やってもやっても地面が見えないような雪。いったいどんだけ降ったんだよぉ～。と皆でブツブツ・・・。

それでも行かなければならないところが私にはあった。こんな状況だからきっと『こんな時に車いすの人が外出しなくても・・・』と言ってくる人は一人くらいはいるだろうな・・・。と考えながら出掛けた。ところがそうはならなかった。通る人通る人『手伝います！同じ方向ですから！』と一人二人と一緒に歩いてくれる。タイヤが雪に埋まって立ち往生していればまた別の通行人が『大変ですよねぇ』といって傘で雪を解きだしてくれた。大きな道に出てそこで皆さんにお礼を言って別れてもまたシャベルを持った別の人が、『車いすだと大変でしょぉ。ご苦労様。どっちの方に行きます？』と聞いてきた。行く方向を示すと何とシャベルで雪をどかして道を空けてくれるのです。翌日も自分の通る道の雪かきをしていたら、シャベルを持った男性が『手伝います！』私『大丈夫です。せっかくの週末ですから休んでください。』男性『休みだから手伝えるんです。』と言ってたくましく黙々と進めてくれた。そこは前日に通行中のおばあちゃんが滑ってしまった。だからどうしてもやらねければならなかった。駅に続く道だから皆通る大事な道。その道を通る高齢者は私達の雪かきの姿に必ず一言労いの言葉を掛けて通って行く。

間もなく駅までの道が開通して大喜びしたいのを我慢してその男性にお礼を言った。その男性が私のアパートの裏に住んでいることを知った。そうそう、途中で通行中のおばさんが私の持っていたシャベルを取り上げて『交代するわ。もう帰るだけだから。』と参加してくれたおばさんもいた。自分の持っていたリュックを『貴方はこれを持ってて』と差し出したたくましいおばさんだった。

その方にも挨拶したら『私、貴方をよく見かけるから手伝ってみたのよ。』とそれだけ言って去って行った。

雪かきを終えて帰る途中に高齢者が私達を止めて雪が無くなってどれだけ助かったかを話し最後に感謝を述べてくれた。合計で３名の高齢者と同じことがあった。喜んでくれたのは嬉しいが、あまり喜ばれると恥ずかしくなることも始めて感じた。

そうだった。手を貸してくれた誰もが皆私を知っていた。そう言ってた。『あっちのアパートの人でしょう？朝早くに駅に向かう。』とそれぞれに言われる。見られていたんですね。そういえば私は知らない人に良く挨拶をされる。言葉でなくても目線でも挨拶かな？と感じる時は私も失礼のないようにできるだけ上品に目線で挨拶を返す。夕方は知らないおばさんやおじさんに『お帰り！』と声を掛けられる。私も『ただいま！』と返す。どの人も名前は知らない。正直顔も覚えていない。何だか不思議な感じがした。２月１日に亡くなった我らの代表川元恭子が自立生活を語る時の中に必ず入っていたことそれは『なるべく外出し地元と交流を。』だった。こういうことだったのか・・・。

だから介助者を伴って毎日出掛けて行く私の姿を見てくれていたんですね。それで車いすの生活を理解しようとどの人も見守っていてくれたのかもしれないと始めて知った。でも地元だからじゃない？とおもうでしょ。それもそうじゃないんです。駅でもそう。雪で電車が遅れて大幅に間に合わないかも。と心配な時に限ってやっぱり電車は満員。でも乗らなければならない時に限って係員は混雑を理由に乗車を拒否してる。そこでもちろん『何で乗せないんですか？』と言い合いになる『混んでるし、皆さん仕事ですから！』と怒鳴る。『私だって仕事ですよ！』これは新しい乗車拒否か？と係員とやり合ってると隣の会社員が『この方が待ってたドアに車いすマーク付いてましたよ』と援助してくれた。また隣のおじさん会社員も『そんな怒鳴らなくてもいいんじゃないですか？』と係員に注意してくれた。このように車いす使用者の外出に対し社会がやっとあたり前なんだと理解をしてきて、人として理不尽なことに社会が『おかしいのでは？』と感じるようになってきたのかもしれません。そうだったとしたら嬉しい。全国の車いす使用者が他人から何を言われても、何をされても諦めずに外出を続けた結果なら本当に嬉しい。社会から与えられた差別、言われた心の傷は障害者なら必ずあるだろう。それでもそれ以上に社会が障害の理解をし始めたなら何時の日か必ず障害者の受けた傷が癒える時が来るのかもしれないと甘い期待をしてしまうのは私だけでしょうか。

でもそう思いながら差別解消に取り組まないと気持ちが沈むし、なにをやっているのかわからなくなる。『私って誰？』ってな感じになる。でも雪のお陰で気づかなかった社会の人々を知ったことは成果だった。

そうそう、こんなこともあった。電車になかなか乗せない係員とまた乗せない乗せての言い合いをしていた。皆さんは私をどう見ているのかわかりませんが公の場でやり合う時はなるべく丁寧なことばで上品にやり合う。例えば『乗せろぉ！』ではなく『何で乗せられなのですか？これに乗るとお願いしたでは

ないですか。』という感じに私は言ってる。そんな時の係員の言葉は大体が理不尽な言いわけなんですね。だから周りも聞いていて不愉快になるのかもしれません。そんな時に近くの人が『この人はこう言ってるじゃないですか。』というようになる。その暮れの時もそうでした。一向に対応しない係員に強く抗議してくれて、周辺にいた人が人力で私を電車に乗せようとしてくれた。行き先にも付いて降ろしてくれるからとまでいったくれた周りの乗客に係員が負けた形で無事に乗車できた。電車が出発してもその方々は私に『まだあんな対応するの？抗議した方がいいし必要なら手伝うから。自分達もいつまでも健康でいられるわけではないしね。』なんて名刺を渡してくれた。一人は一流の企業だった。その日からその方とは時々ホームで逢う。逢うというか私を見かけると声を掛けてくれる。挨拶をして、今日も頑張りましょうね。というだけ。

それだけで良い良い。そうやって障害に興味をもってくれる人が増えればもっと社会は変わる、変わらないのは交通事業者だけじゃ。

私も社会から見られていることを意識して係員とやり合わなければと感じる今日この頃。実際疲れます。そんな疲れを取る最近の私の楽しみを一つ教えてあげましょう（*^_^*）

それは不二家ミルキーの大玉当てでーす。なかなか当たらないけど、運の良いときは一袋に２個入っています！昨年１１月から始めてもう１１個見つけたよ。

それ以上に買ってるけど、そろそろ銀歯が取れる心配が・・・。皆様、挑戦する際には歯が取れない様に注意を！(^^)！

不二家ミルキーの大玉

ぶっちゃんの子育て奮闘記⑰

大渕　由理子

～保育園デビュー～

やっと保育園に通える体力も付き、体も大きくなって（周りの同じ月齢児に比べれば小さいけどね・・・）いよいよ保育園デビュー！！！

今までは、ずっと一緒だったうちの子も日中は、ママから離れ、ママ的にはホッとする半面ちょっぴり寂しい気持ちでした。

私が、息子を保育園へ送り迎えをしていました。障害を持つ親が今までいなかったせいか、保育士や保育園自体のバリアフリーへの無知や私に対する接し方が分からなかったため、お互いどう接していいのか分かりませんでした。でも、徐々に保育士と接しているうちに、他のお母さん達と同じ様に話せるようになりました。

他のお母さん達も、積極的に話しかけてくれて一緒に飲みに行ったり、保育園行事で大変なところを手伝ってくれたりと、私も普通のお母さんのようになれたように思えてきました。

息子も、だいぶ周りの子に刺激を受けてきたのか、キャラクターのアンパンマンがお気に入りになり、テレビを観て何でも『アンパンマン！アンパンマン！』と、言うようになってきて母親として未熟児で産まれた息子の成長がとても嬉しく思えました。

（続く）

【ＮＥＷ　ＦＡＣＥ紹介】　冨田実希

雨にも負けず風にも負けず雪にも夏の暑さにも負けぬ丈夫な体を持ち、以下省略でそんなんに私はナリタイと思い日々を送っていたら、いつの間にやら勤続１０年となりました冨田実希です。まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。

今から２～３０年前の８月、神棚や賽銭箱などを作る神具職人の父と、宝塚と劇団四季をこよなく愛す専業主婦の母の元に生を受け、小学校では「バイソン」という勇ましいあだ名を賜る活発な児童。中学、高校、短大では、母の影響か、お芝居に夢中。もう勉強する暇などないくらい演劇にうちこむ青春を送りました。そして２２歳、本気で舞台女優を志し上京。しかし女優として全く目が出ずあえなく挫折。そして２５歳、ついにCIL・小平に出会います。

面接の時、「障がい者が地域で暮らすということ、ヘルパーを入れるということ、CILの理念」を川元さんが熱くお話されているのを見て、、、こんなこと書いたら怒られるかもしれないけれど、、、当時の私にはよく分かりませんでした。

と言うのも私、障がい者の方々も当たり前に自分と変わらない生活をみんながしていて、施設というのは老人が行くところだと思っていたんです。今思えばとんでもない物知らずでお恥ずかしい限りですが、阿呆は阿呆なりに、川元さんのお話の根底にある「ボランティア精神、奉仕の心、教えてあげよう導いてあげようは必要ない。個人の気持ちを尊重して付き合えるヘルパーを求めている」という部分を理解し、激しく共感。私ここで働きたい！！と思ったのでした。

さて、希望通りにCIL・小平の一員になれた私ですが、１０年間、順風満帆にやってこられたわけではありません。

私の無神経さが原因で利用者さんを激怒させたこともあります。わたしの我の強さ故に利用者さんと関係を築くことができなかったこともあります。でも、躓く度に、コーディネーター、GM、利用者さん、まわりの全ての人が私と真剣に向き合ってくれます。

「誠実に、正直に、真剣に人と向き合えるヘルパーになろう」と１０年前に私が誓った理想を体現してくれる人たちに囲まれています。

相手を尊重し、相手に寄り添わなくちゃと思うのに、自分の感情が優先になってしまいがちな困った私なのですが、仕事好き。CIL好き。ずっとここで働きたいと思っているのです。今の自分で満足することなく、常に、さらに自分が良くなるためには何が必要か、どうするべきかを考え、日々精進していきたいと思います。

ばばぁ～のたわごと

最古参コーディネーター　馬場　真美

ＣＩＬ小平は川元がいなくてもしっかり成り立ちますが、本当にたわごとになりますが、私の心構えの時間としてもあと２カ月生きてほしかったです。でも川元が年末に「もうきつい」と言ってからの１カ月はあり得ないほどのきつい時間だと思うので、川元にとっては悔いのない２月１日だったかもしれないですね。

川元は組織改変の事を心配していたから、1 月末に、「ほとんど目処がついたよ」と言ったら川元は「やったね！」と声にならない声で言って、右手でグーサインをした。だから、私は出来ることなら、自分が立ち上げた組織の先を見せてあげたかった。自分の目で確かめられるのがあと 2 カ月あったなら出来たと思うから、そういう意味でのあと 2 カ月なんだよね。

川元は、「重度障がい者が地域で人間として生きられるように出来る限りのことをしたい」と日々そのための運動をしていた。「≪人間として生きる≫って健常者なら当たり前の権利だけれど、障がい者はあたりまえじゃないんだ。ひどいだろ。人間として生きることをだ」といつも言っていた。

出会ったときから川元は負けず嫌いだった。「障がい者だから無理だ」という言葉が大嫌いだった。「いやいや、これは差別じゃなくまじ無理でしょ」という事も「障がい者だから出来ないと言われる事がどんなにつらいかわかるか？」と言い返してきたよね。

川元は原体験として障がい者ゆえにつらい事を抱えて香川からでて来ていたと感じた。その原体験がすべてのことへのエネルギーに繋がったと思うし、どんな事にも負けない、決して泣かない力強い原動力を生んだと思う。

人は自分の思いで動くものだから、これからの小平も関わる人の思いで動いていくと思う。それは川元のエネルギーの基とは違うものだけれど、心から湧き出る強い思いが、人を動かすことに繋がることを肝に銘じて、「人を大事に、人の思いにこだわる」小平であり続けたいと心に留めたい。

《 活 動 報 告 》

2013 年　12 月		
1 日	（日）	ＤＰＩ障害者政策討論集会（山嵜）
2 日	（月）	国土交通省交渉(山嵜)／ＤＰＩ日本会議バリアフリー部会(山嵜)／障害者センターピアカン
3 日	（火）	マネージャー会議／つきの道
4 日	（水）	個別ＩＬＰ(竹島)／民営鉄道協会交渉(山嵜)／自立生活センター・所沢主催自立生活プログラム受講(瀧澤)
5 日	（木）	マネージャー会議／ピアカンＩＬＰ会議／ＤＰＩ日本会議バリアフリー研修打合せ(山嵜)
6 日	（金）	職員会議／報告検討会議／ＧＭ会議
7 日	（土）	ＤＰＩ日本会議バリアフリー研修打合せ(山嵜)
9 日	（月）	ＧＭ会議／マネージャー会議
10 日	（火）	マネージャー会議／単発ＩＬＰクリスマス会
11 日	（水）	研修会議
12 日	（木）	医療情報会議／チームリーダー会議／マネージャー会議／ピアカンＩＬＰ会議
13 日	（金）	報告検討会議／ＧＭ会議
16 日	（月）	～19 日(木)全国自立生活センター協議会全国セミナー(淺川)
17 日	（火）	大手民営鉄道、第 3 セクター17 社意見交換会（山嵜、大渕）
20 日	（金）	報告検討会議
21 日	（土）	交通行動東京実行委員会（山嵜）／全国脊髄損傷者連合会東京支部(淺川)
23 日	（月）	マネージャー会議
24 日	（火）	マネージャー会議
25 日	（水）	忘年会
26 日	（木）	マネージャー会議／大掃除
27 日	（金）	報告検討会議／研修会議／ＧＭ会議
2014 年　1 月		
6 日	（月）	マネージャー会議／ピアカジュアル
7 日	（火）	マネージャー会議／つきの道／ＤＰＩ日本会議バリアフリー研修打合せ(山嵜)
8 日	（水）	個別支援会議
9 日	（木）	ＧＭ会議／ＤＰＩ日本会議バリアフリー研修打合せ(山嵜)

10 日	（金）	職員会議／報告検討会議／ＧＭ会議
14 日	（火）	利用者会議／個別ＩＬＰ(小泉、竹島)／マネージャー会議
15 日	（水）	個別ＩＬＰ(竹島)
16 日	（木）	医療情報会議／ＧＭ会議／ＤＰＩ日本会議バリアフリー研修打合せ(山嵜)／個別ＩＬＰ(淺川)／ピアカンＩＬＰ会議
17 日	（金）	報告検討会議／バリアフリーネットワーク会議(山嵜)
18 日	（土）	交通行動東京実行委員会(山嵜)／～19 日(日)伊東重度障害者センター訪問(淺川)
21 日	（火）	マネージャー会議／～22 日(水)東京都相談支援専門員初任者研修(淺川)
23 日	（木）	ピアカンＩＬＰ会議／チームリーダー会議／ＧＭ会議／自薦ヘルパー推進協会会議
24 日	（金）	報告検討会議／ＧＭ会議
26 日	（日）	全国脊髄損傷者連合会東京支部役員会(淺川)
27 日	（月）	障害者センターピアカン
28 日	（火）	マネージャー会議／個別ＩＬＰ(竹島)
29 日	（水）	個別ＩＬＰ(竹島)／個別支援会議
30 日	（木）	ピアカンＩＬＰ会議／ＧＭ会議／個別ＩＬＰ(竹島)／交渉会議(竹島)
31 日	（金）	報告検討会議／研修会議

2014 年　2 月

3 日	（月）	個別ＩＬＰ(竹島)
4 日	（火）	マネージャー会議／つきの道
5 日	（水）	～6 日(木)ＤＰＩ日本会議バリアフリー研修(大渕)
6 日	（木）	ピアカンＩＬＰ会議／自薦ヘルパー推進協会会議(竹島)／ＧＭ会議
7 日	（金）	職員会議／報告検討会議
10 日	（月）	マネージャー会議／ＧＭ会議
12 日	（水）	個別ＩＬＰ(竹島)／都営地下鉄意見交換会(山嵜)
13 日	（木）	ピアカンＩＬＰ会議／自薦ヘルパー推進協会会議(竹島)／ＧＭ会議／医療情報会議／個別ＩＬＰ(淺川)
14 日	（金）	報告検討会議
15 日	（土）	交通行動東京実行委員会(山嵜)
17 日	（月）	障害者センターピアカン
18 日	（火）	マネージャー会議／国土交通省話合い(山嵜)／全国介護保障協議会電話会議(竹島)／全国自立生活センター協議会ユースパワーネットスカイプ会議（淺川）
20 日	（木）	チームリーダー会議／個別ＩＬＰ（竹島）／ピアカンＩＬＰ会議／ＧＭ会議／ＩＬＰリーダーズ会議(淺川)

21 日	（金）	報告検討会議
22 日	（土）	交通行動東京実行委員会（山嵜）
23 日	（日）	全国脊髄損傷者連合会東京支部役員会(山嵜、淺川)
24 日	（月）	マネージャー会議／自薦ヘルパー推進協会電話会議(竹島)／～25 日(火)全国自立生活センター協議会ピアカン委員会(大渕)／個別ＩＬＰ(淺川)
25 日	（火）	マネージャー会議／個別ＩＬＰ(竹島)／利用者交流会
26 日	（水）	交渉会議(小泉)
27 日	（木）	ＧＭ会議／ピアカンＩＬＰ会議／自薦ヘルパー推進協会会議
28 日	（金）	報告検討会議

2014 年　3 月

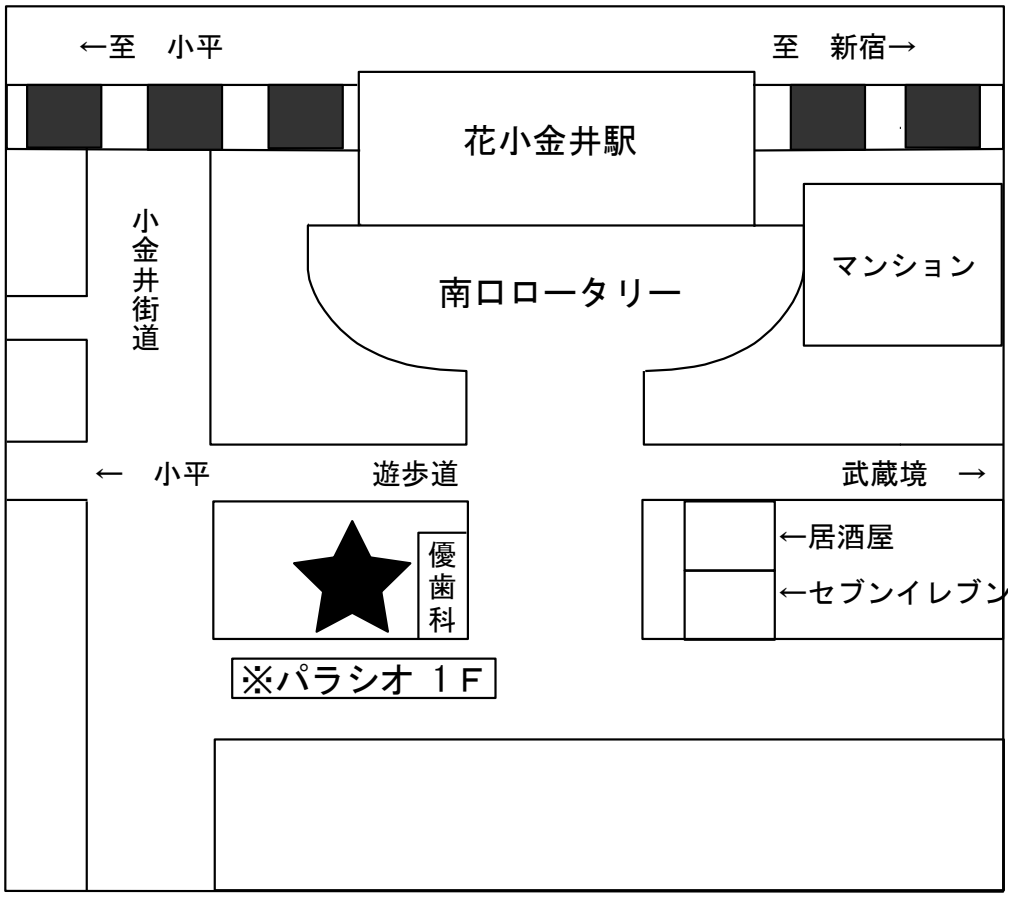
1 日	（土）	ヒューマンケア協会主催ピアカン公開講座参加(瀧澤)
3 日	（月）	交渉会議(竹島)／国立リハビリテーションセンター訪問(山嵜)／ＣＩＬチェック来訪(山嵜)
4 日	（火）	つきの道／マネージャー会議
5 日	（水）	個別支援会議
6 日	（木）	ピアカンＩＬＰ会議／ＧＭ会議
7 日	（金）	職員会議／報告検討会議
10 日	（月）	自薦ヘルパー推進協会電話会議(竹島)
11 日	（火）	川元恭子お別れ会
13 日	（木）	医療情報会議／ＧＭ会議
14 日	（金）	報告検討会議／ＤＰＩ日本会議バリアフリー部会差別禁止法勉強会(山嵜)
15 日	（土）	交通行動東京実行委員会
17 日	（月）	個別ＩＬＰ(竹島)／障害者センターピアカン
18 日	（火）	マネジャー会議／個別ＩＬＰ(竹島)／単発ＩＬＰ
19 日	（水）	報告検討会議／マネージャー会議
20 日	（木）	チームリーダー会議／ピアカンＩＬＰ会議／自薦ヘルパー推進協会会議(竹島)／ＧＭ会議
24 日	（月）	宿泊体験ＩＬＰ(竹島)／自薦ヘルパー推進協会電話会議(竹島)／個別ピアカン(淺川)
25 日	（火）	マネージャー会議／宿泊体験ＩＬＰ(竹島)／利用者交流会／東京都庁福祉保健局訪問(山嵜)
27 日	（木）	ＧＭ会議／自薦ヘルパー推進協会電話会議(竹島)／鉄道会社交渉(山嵜、大渕)
28 日	（金）	報告検討会議
31 日	（月）	全国自立生活センター協議会関東ブロック会議(淺川)

編　集　後　記

皆さんこんにちは。桜の季節も過ぎ、夏はもうすぐといったところですが如何お過ごしですか？さて、早いもので、川元前代表が天国に旅立ってから３ヶ月になります。1996 年の設立以来川元さんが大切にしてきた、運動ときめ細かなサービス、寄り添いと思いやりを受け継ぎ、これからも自立生活センター・小平いちがんとなり頑張って行きますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（編集委員　小泉）

■自立生活センター・小平　地図



２４時間・３６５日介助

近隣の8市にまたがって身体障害者、知的障害者、精神障害者にサービスを提供しています。（初めてサービスを利用する場合は、利用規約等について事前に説明する場を設けさせていただきます。）

・自費利用	①知的・ガイドヘルプ	￥１，４５０／時
	②家事援助	￥１，４５０／時
	③重度訪問介護	￥１，５００／時
	④身体介護	￥１，８００／時
・ＩＬＰ、ピア・カウンセリング利用		ご相談ください。
・自立支援法によるヘルパー利用		ご相談ください。

障害者生活支援事業

◇介助制度、手当、住宅改造、生活保護などの制度利用の申請のサポートならびに生活に関わるあらゆる相談をお受けします。
- 電話相談：３６５日、９時～２２時
- 面接相談：月～金、１０時～１７時

◇ピア・カウンセリング（集中講座、個別）

◇自立生活プログラム（生活力、社会性を高めるプログラム）
長期プログラム、短期プログラム、個別プログラム、単発プログラム
プログラムテーマ例…障害って何？・介護を頼もう（介護者との関係）・制度学習・フィールドトリップ・お金の管理・調理実習　…など

◇宿泊体験－民間のアパート（自立生活体験室）に泊まって、自立生活を体験するプログラムです。

◇自立生活をめざすための住宅サービス（アパート等の住居の確保）

◇広報誌の発行（制度や自立生活のノウハウに関する情報提供、情報交換）

各サービスを利用される方には、協力会費を頂いております。
入会ご希望の方は、下記までお問い合わせください。
会費：年額4,200円(年度途中から入会の場合月額350円)

《編集》**自立生活センター･小平**
〒187-0003　東京都小平市花小金井南町
１－２６－３０　パラシオ102
TEL/042-467-7235　FAX/042-467-7335
Ｅ－ＭＡＩＬ：cilkodaira3@hotmail.com

《発行所》
障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21
（定価　100円）